

2 自然関連リスク・機会と富士フイルムの取り組み (足柄・富士宮編)

2.1	足柄・富士宮における自然関連のリスク・機会の特定	13
2.1.1	足柄・富士宮における直接操業による依存・インパクトとリスクになり得る操業上の要因	13
2.1.2	足柄・富士宮のリスク・機会および今後の取り組み方針	14
2.1.3	足柄・富士宮で生産する製品のバリューチェーンと依存・インパクト	14
2.2	測定指標とターゲット	16

2 自然関連リスク・機会と富士フィルムの取り組み（足柄・富士宮編）

2.1 足柄・富士宮における自然関連のリスク・機会の特定

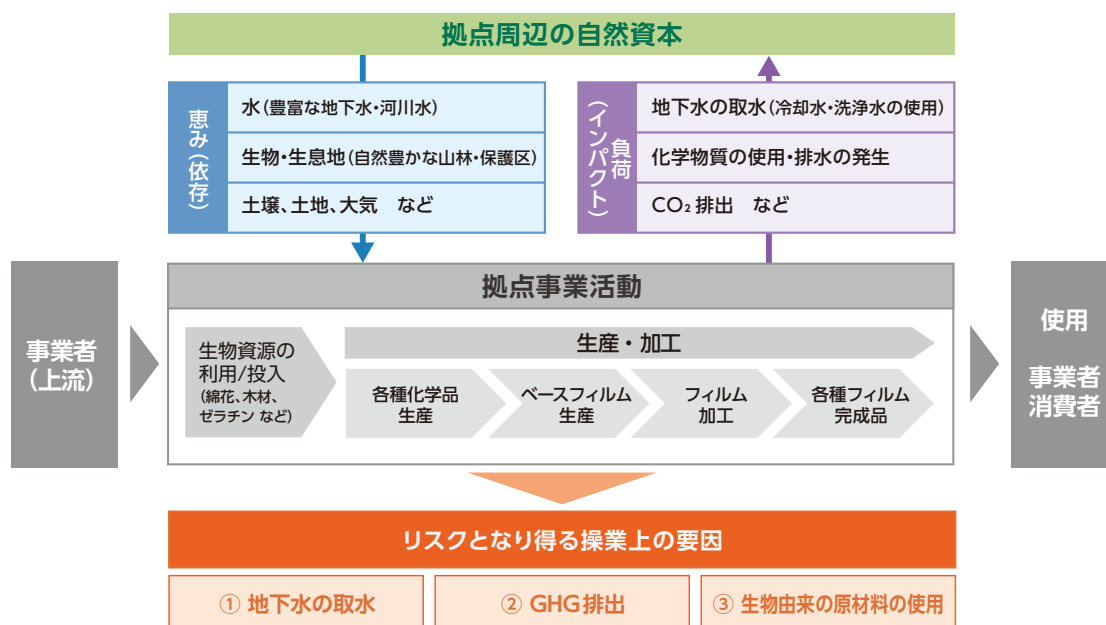
2.1.1 足柄・富士宮における依存・インパクトとリスクになり得る操業上の要因

足柄サイトではインスタントフィルムなどの写真感光材料のほか、複数の事業製品を生産しており、富士宮事業場ではX線フィルムなどの各種機能性フィルムの生産を行っています。

足柄サイト・富士宮事業場における自然への依存・インパクトおよびそこから派生するリスク・機会を特定することを目的として、LEAPアプローチに沿った評価を実施しました。立地情報に基づいた周辺地域の自然の特性や注意事項を確認するデスクトップ調査、および直接操業の操業内容に対しアンケート・ヒアリングや現地調査などを通じた評価を行った結果、足柄サイト・富士宮事業場において、リスクとなり得る操業上の要因を特定しました。なお、足柄サイト・富士宮事業場の操業内容に関する情報は「1.2 足柄・富士宮の自然」、本分析プロセスの詳細は「3.3.1 リスクとインパクトを特定するプロセス」に記載しています。

No.	リスクとなり得る操業上の要因	選定理由	リスク低減に向けた現状の取り組み
①	地下水の取水	足柄サイト・富士宮事業場では、生産工程において大量の地下水を使用しており、また、両サイトの地理上の位置は、水ストレスの評価ツール Aqueduct ^{※5} による一次評価において、「Medium-High」と評価されました。 一方、より詳細な分析のためGETFLOWSを活用し各拠点周辺の流域の水の供給性を評価したところ、水ストレスによるリスクは非常に低く、両拠点での水の利用が周辺地域の水の供給に過剰な影響を与えていないことを確認しました。この詳細調査に基づき、操業要因である「地下水の取水」はリスクにはつながらないと評価しています。 <small>*GETFLOWSによる分析結果の詳細については「1.3 足柄・富士宮における自然関連情報の分析結果」をご参照ください。</small>	現在、足柄サイト・富士宮事業場では冷却水の循環利用などの取水量削減の施策を実施しています。また、足柄サイトでは「湧水の森林」に対し保全を行うことで水源の維持に努めています。
②	GHG排出	足柄サイト・富士宮事業場では、生産活動にて都市ガスを使用しているため、GHG排出があります。	富士フィルムグループでは、全社的なGHG排出削減目標を設定し各種の施策を拠点別に展開しています。足柄サイト・富士宮事業場もその対象であり、再生エネルギー導入や省エネルギー活動、燃料転換など、GHG排出の低減を推進しています。
③	生物由来の原材料の使用	足柄サイト・富士宮事業場で生産している製品には、原材料の一部として木材や綿花、動物性のゼラチンなどの生物資源を使用しており、生産上、これらの原材料に依存しています。なお、足柄サイト・富士宮事業場で生産する製品のバリューチェーン上の依存・インパクトの詳細については、「2.1.3 足柄・富士宮で生産する製品のバリューチェーンと依存・インパクト」で詳述しています。	生物由来のものを含む多くの原材料に対しサプライチェーン全体にわたる自然資本に配慮した安定調達の実現に向けてサプライヤーとの協働によるサステナブル調達の活動などに取り組んでいます。

足柄サイト・富士宮事業場と自然資本の関わり



2.1.2 足柄・富士宮のリスク・機会および今後の取り組み方針

LEAPアプローチに沿った評価の結果を踏まえ、自然関連で発生しうるリスクと機会、ならびにリスク低減と機会創出に向けた対応策を下表に体系化しています。対応策については、現在、足柄サイト・富士宮事業場で実施中の取り組みに加え、富士フィルムグループ全体で今後取り組む内容も含めて記載しています。

足柄サイト・富士宮事業場における自然関連のリスクと機会、ならびに対応策

リスクになり得る 操業上の要因	定柄サイト・富士宮事業場における主なリスク／機会			対応策	
	リスク／機会の内容		リスク／機会のカテゴリー		時間軸
①地下水の 取水	機会	水資源の使用効率向上による長期的な製品付加価値の向上	・企業のパフォーマンス - 資源効率	中期～長期	・生産工程における水の効率性改善 ・冷却水の循環利用による水使用量削減(足・富) ・森林の生態系保全による水源涵養量の維持や土砂災害の抑止(足) ・河川の保全を通じた地域環境への貢献や、自然共生サイトのツアーを通じたステークホルダーとのエンゲージメント(富)
		拠点周辺の自然環境の保護、復元、再生、それに伴う地域ステークホルダーとの関係性向上	・企業のパフォーマンス - 評判資本 ・持続可能性パフォーマンス - 生態系の保護、復元、再生	長期	
②GHG排出	リスク	法令などによるGHG排出量規制の強化に伴う関連課税の発生、事業費や新規設備費の増加	・移行リスク - 政策	短期～中期	・GHG排出削減に向けた投資施策を含む各種施策の計画的な推進(足・富) ・製品ライフサイクル全体におけるGHG排出量削減 ・製品のサステナビリティ関連認証の取得
		顧客・消費者のサステナブル志向への移行、それに伴う非低炭素製品需要の減少	・移行リスク - 市場	中期～長期	
	機会	エネルギー利用効率向上によるコストの削減	・企業のパフォーマンス - 資源効率	短期～中期	
③生物由来の 原材料の使用	リスク	自然災害発生などによる原材料である資源の不足、それに伴う一時的な操業停止による損失発生や財務的負担の増加	・物理的リスク - 急性	短期～中期	・複数サプライヤーとの取引によるリスク分散 ・サプライヤー協働によるサステナブル調達活動の推進 ・サステナビリティ認証を取得した原材料の調達と使用
		調達に関わる規則などの強化による意図せぬ調達先の変更、それに伴う財政負担の増加	・移行リスク - 政策	短期～中期	
	機会	生物由来の原材料の使用効率向上、それに伴う原材料の価格変動に対する影響低減、製品付加価値の向上	・企業のパフォーマンス - 資源効率	中期～長期	・認証取得した原材料の調達 ・サプライヤーへの環境目標設定の要請 ・再生材の利用
		認証取得原材料の使用などによる環境負荷の低減	・持続可能性パフォーマンス - 自然資源の持続可能な利用	長期	
その他	機会	自然環境に配慮した操業による投資家の選好性の向上、資金調達の拡大(ESGファンドへのアクセスなど)	・企業のパフォーマンス - 資本フローと資金調達	中期～長期	・TNFD開示の実施(足・富) ・経営戦略に対する生物多様性の視点の反映 ・自然共生サイトへの登録(足・富)

* (足) (富) と記載されている対応策はすでに足柄サイトや富士宮事業場でそれぞれ実施している対応策を意味します。

2.1.3 足柄・富士宮で生産する製品のバリューチェーンと依存・インパクト

足柄サイト・富士宮事業場で生産している主要な製品について、製品の upstream から downstream に至るバリューチェーンの各プロセスによる自然への依存・インパクトを把握することを目的に、バリューチェーンの整理とENCOREを用いた評価を行いました。その結果、自然への依存・インパクトが高い生産プロセスは、いずれも upstream 側に多い傾向にあることを確認しました。

富士フィルムグループでは、サプライチェーンの upstream に関してはサステナブル調達ガイドラインに基づき取引先に生物多様性に配慮した調達を行うこと、またサプライヤーへのアンケートなどを通じて人権や環境に配慮することを要請しています。今後、生産で使用する原材料に含有されるハイクラスインパクトコモディティの調査や、認証取得原材料の導入などの施策検討をサプライヤーと協働して進め、バリューチェーン全体の持続可能性を高めていきます。

・サステナブル調達ガイドライン

<https://holdings.fujifilm.com/ja/sustainability/vision/policy/procurement#link01>

・サプライチェーンにおける環境の取り組み

<https://holdings.fujifilm.com/ja/sustainability/activity/supply-chain/supply-chain-management/sustainable-procurement#link04>

ENCORE評価の結果については以下のヒートマップとしてまとめています。

足柄サイト・富士宮事業場の主要製品のバリューチェーンにおける「依存」に関するヒートマップ

		川上			川中		川下		
		原材料採取		原材料加工	一次・二次製品製造	最終製品製造	流通	販売	再利用・廃棄
		農林畜産業による 原材料栽培・採取	鉱物資源・ 石油資源採掘	ナフサ・木材チップ 製造	各種化学物質やパルプ、 プラスチック製品、 紙製品の製造	各種フィルム・ カラーペーパー、 包装資材の製造	運輸・保管	専門卸売	廃棄・ リサイクル
供給 サービス	淡水供給								
	遺伝物質								
	バイオマス供給								
調整・ 維持 サービス	大気ろ過機能								
	水量調節								
	水質浄化								
	土壌の品質調整								
	固形廃棄物の浄化								
	洪水調整								
	土壌・底質の保持								
	暴風雨の緩和								
	花粉媒介								
	苗床の数と生息地の維持								
	生物的防除								
	地球規模の気候調整								
	局地的な気候調節								
	降雨パターンの調整								

Very Low、Low、Medium、High、Very High、非該当

・主要製品が該当する製品セクターのリスク評価の中で最も高いスコアを引用して示しています。川上から川下までの範囲において、評価結果が High 以上の依存項目（生態系サービス）のみを表示しています。

・ は、当社の直接操業を示します。

足柄サイト・富士宮事業場の主要製品のバリューチェーンにおける「インパクト」に関するヒートマップ

		川上			川中		川下		
		原材料採取		原材料加工	一次・二次製品製造	最終製品製造	流通	販売	再利用・廃棄
		農林畜産業による 原材料栽培・採取	鉱物資源・ 石油資源採掘	ナフサ・木材チップ 製造	各種化学物質やパルプ、 プラスチック製品、 紙製品の製造	各種フィルム・ カラーペーパー、 包装資材の製造	運輸・保管	専門卸売	廃棄・ リサイクル
気候変動	GHG排出								
陸・海洋 利用の 変化	淡水利用面積								
	土地利用面積								
	海底利用面積								
	大気汚染物質の排出								
汚染	外乱(騒音、光など)								
	固形廃棄物の発生・排出								
	水・土壌への有害物質排出								
	水・土壌への栄養塩類排出								
資源使用・ 補充	水使用								
	その他の生物資源の採取								
	その他の非生物資源の採取								
外来種	侵入種の導入								

Very Low、Low、Medium、High、Very High、非該当

・主要製品が該当する製品セクターのリスク評価の中で最も高いスコアを引用して示しています。

・ は、当社の直接操業を示します。

2.2 測定指標とターゲット

富士フイルムグループでは、上記課題に関連し、また長期CSR計画のSVP2030において定めた重点課題に関連する指標を中心に、TNFDグローバル中核開示指標のうち廃水量、GHG排出量、GHG以外の大気汚染物質の排出量、廃棄物量を、また、追加開示指標として総取水量を開示しています。現在開示できていないグローバル中核開示指標は、開示に向けた検討を進めていきます。

なお、足柄サイト、富士宮事業場は現地調査も含めて詳細な評価を行いました。今後同様に優先的に対応する拠点を取水量をもとに選定していく方針です。今回の対象である足柄サイト、富士宮事業場の取水量と、昨年評価を実施した富士フイルムビジネスイノベーションの生産・開発拠点の取水量の合計値は、2024年度においてグループ全体の実績に対し約50%に相応します。

当社グループ全体の指標と目標

測定指標 番号	自然変化 の要因	項目		富士フイルムグループ実績*1		2030年度目標	リスクとなり 得る操業上 の要因*2	GBF ターゲット番号		
				2023年度	2024年度 ()内は足柄・富士宮					
A3.0	資源使用	取水量	上水	4.5百万㎡	4.7百万㎡	水投入量30%削減 (2013年度比。2024年度末 までに15%削減を達成)	①地下水から の取水	ターゲット11		
			工業用水	3.2百万㎡	3.3百万㎡					
			地下水	33.8百万㎡	34.4百万㎡					
			雨水、その他	0.2百万㎡	0.2百万㎡					
			総取水量	41.8万㎡	42.6百万㎡ (足柄 9.8百万㎡、 富士宮 10.9百万㎡)					
C2.1	汚染	排水量	下水	15.5百万㎡	8.8百万㎡	個別目標は設定していません。 (水投入量にて目標を設定)	—	ターゲット7 ターゲット11		
			河川	20.2百万㎡	27.4百万㎡					
			その他	0.9百万㎡	0.9百万㎡					
			総排出量	36.6百万㎡	37.2百万㎡ (足柄 7.9百万㎡、 富士宮 11.9百万㎡)					
C2.2	汚染	廃棄物量	廃棄物発生量	100.7千t	92.8千t	個別目標は設定していません。	—	ターゲット7 ターゲット11		
			特定有害廃棄物量の排出量	2,481t	5,531t					
—	気候変動	GHG排出量	スコープ1	563千t-CO ₂	527千t-CO ₂	スコープ1,2の 合計：50%削減 製品ライフサイクル CO ₂ : 50%削減 (2019年度比、2024年度末 までに18%削減を達成)	②GHG排出	ターゲット7		
			スコープ2 マーケットベース	390千t-CO ₂	392千t-CO ₂					
			スコープ2 ロケーションベース	454千t-CO ₂	425千t-CO ₂					
			スコープ3	7,926千t-CO ₂	8,095千t-CO ₂					
C2.4	汚染	GHG以外大気 汚染物質排出量	SOx排出量	15t	8t (足柄 0t、富士宮 1.5t)	個別目標は設定していま せん。	—	ターゲット7 ターゲット11		
			NOx排出量	253t	182t (足柄 17.7t、富士宮 82t)					
			ばいじん排出量	5.0t	3.0t (足柄0.4t、富士宮 0t)	過去3年間の最小値以下				
			VOC排出量	5.6百t	6.0百t (足柄 1.5百t、 富士宮 1.4百t)					
C7.4	—	自然にプラス インパクトを もたらす製品の 収益割合	関連する指標として 「Green Value Products 認定製品※6)による 売上比」を掲載	売上比28%	売上比24%	売上比60% (2030年度)	—	—		

*1：実績値は富士フイルムグループの全事業拠点を算出の対象としています。

*2：本開示スコープにおいて特定された「リスクとなり得る操業上の要因」のうち、各指標と関連するものを記載しています。